

8 あなたもできる「農家民宿」！農家民宿開業手続きの「ワンストップ相談」の取組 ～計画から開業までの手続きを継続サポート～

中丹広域振興局農林商工部

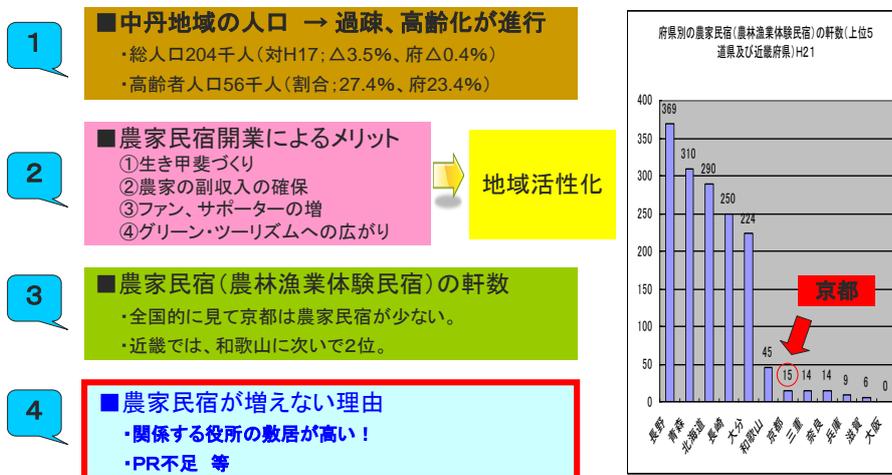
【概要】

- 過疎高齢化が進む農村地域の活性化を図るため、農家民宿を推進しているが、農家の方は、複数の役所に手続きが必要なため「煩雑」、「敷居が高い」という気持ちが強く、農家民宿開業の気運が盛り上がりなかった。
- そこで振興局が説明会を実施するとともに、「ワンストップ相談窓口」を開設し、各種手続き書類の事前相談を行うことにより、開業手続きがスムーズに行えるようになり、農家民宿の開業件数が増えた。

背景

- ◇ 中丹地域は、平成22年国勢調査でも過疎高齢化の一層の進行が数字に現れています。農家民宿は、農家の生き甲斐作りや、副収入の確保など地域活性化に大きな効果があります。しかし、全国的に見て、多い所は300軒を超えていますが、京都は15軒と農家民宿が少ない状況にあります。理由として、関係する役所の敷居が高いこと、PR不足などが考えられます。

農家民宿を取り巻く状況



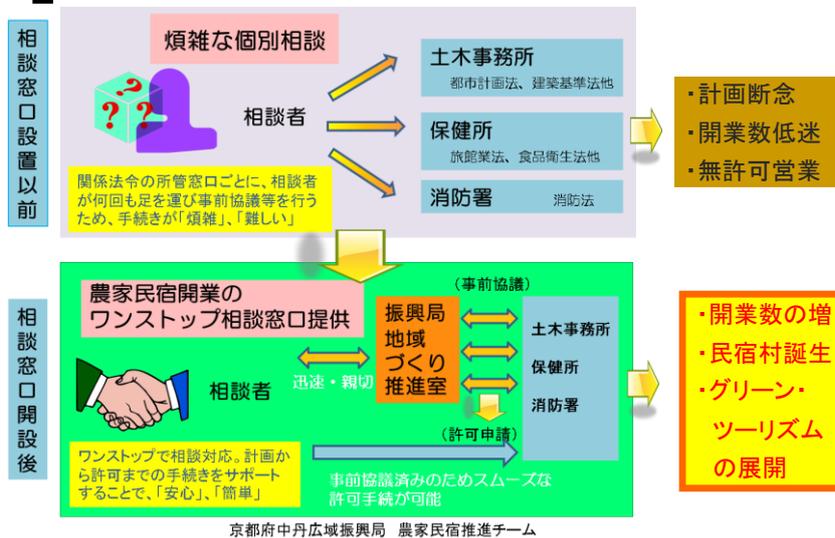
目的

- ◇ 農家民宿を開業する際の関係法令は、余暇法、旅館業法、食品衛生法、建築基準法、消防法等の許可が必要となります。様々な規制緩和がされていますが、開業の際に障害となるものは、建物図面の準備が難しいとか、各種法令の手続き、進め方がわからない、家屋改修費が高くなるなどの意見を聞いています。
- ◇ そこで、振興局の地域づくり推進室がワンストップ相談を受け、継続的にサポートすることで、複数の役所で事前協議等の手続きが必要な「煩雑さ」や、役所の「敷居が高い」といった問題点の改善を図ることを目標としました。

取組

- ◇ まず、農家民宿開業ワンストップ相談を中丹広域振興局の施策に位置づけました。
「由良川里山回廊構想」では、里山に伝わる生活文化等が喪失の危機にあるため、農家民宿や里山ビジネスの創出など、里山を活用した施策を進めることとしています。
また、「中丹地域振興計画」でも、農家民宿数を平成21年の2件から5年間で10軒にする目標とし、23年度の運営目標においては、農家民宿の開業手引の作成と、開業に向けたワンストップ相談2件の実施を行うこととしました。
- ◇ ワンストップ相談の取組状況について
相談窓口設置以前は、相談者は、関係法令の所管窓口ごとに、土木事務所、保健所、消防署などに何回も足を運んで事前協議等を行う必要があり、手続きが「煩雑」「難しい」といった課題があり、計画断念、開業数低迷などの状況がありました。
相談窓口設置後は、振興局の地域づくり推進室がワンストップ相談窓口を提供し、主に協議資料の作成を補助し、計画から許可までの手続きをサポートすることで、「安心」で「簡単」に取り組めるようにし、開業数の増加などにつながりました。
- ◇ ワンストップ相談の状況について
23年度は18件の相談を受け、この内、5軒の新規開業を含め、10件で開業に近い状態まで進みました。
- ◇ 具体的な相談事例について
「農家民泊 素のまんま」さんは、綾部市中上林にあり、府内で唯一、「全国農林漁家民宿おかあさん100選」の認定を受けています。昨年は、府独自の規制緩和の制度説明や、講習会の開催、協議資料の作成、関係機関との調整などを行う中で、昨年実施された京都府の規制緩和利用第1号として、食品衛生法の許可を取得されました。

ワンストップ相談の内容



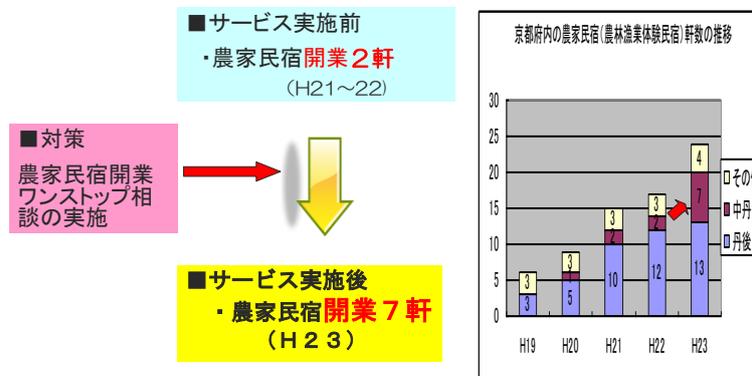
効果

◇ 府民サービス向上の効果ですが、

ワンストップ相談サービス実施前は、農家民宿開業は2軒のまま推移していました。

今年度のワンストップ相談の実施により、開業軒数が大きく伸び、現在、7軒の開業となっています。府民の方からも「一人で行うと大変だったと思いますが、アドバイスや相談に乗っていただき、非常に助かりました」と喜んでもらっています。

府民サービス向上の成果

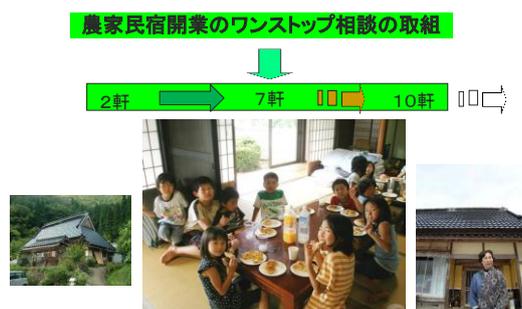


現 在

- ◇ その他、農家民宿の推進方策としては、研修、講習会の開催、開業マニュアルの作成などの他、ワンストップ相談窓口の確立が挙げられ、この内、23年度は、開業の手引を作成するとともに、農家民宿開業説明会の開催や食品衛生法に関する講習会を開催し、HPを立ち上げ、農家民宿の施設紹介や手引きの掲載などを行いました。

振り返りと今後の課題

- ◇ 今後の課題ですが、
Iターン者の開業は増えていますが、ワンストップ相談のPR、地元農家さんの開業増が課題です。今後の展開としては、農家民宿開設ワンストップ相談のPRに一層力を入れ、相談内容も充実したいと考えています。また、中丹ニューツーリズム事業や、京都ふるさとワーキングホリデー in 中丹、ローカルに行こう推進事業と農家民宿との連携を図ることとしています。



企画総務課コメント

複雑な手続きをワンストップで行い、農村地域の活性化を図る農家民宿開業について成果を上げた事例です。

これまで中丹地域には2軒しか農家民宿はありませんでした。手続きが「煩雑」「難しい」から申請をあきらめるといった状況があると知り、地域づくり振興室にワンストップ相談窓口を設置しました。それにより、23年度は5軒の新規開業となり、10軒が開業間近と、確実に成果をあげています。

開業数の増加もさることながら、中丹ニューツーリズム事業やローカルで実施する推進事業との連携などにより、農家民宿が地域活性化につながるよう、その取組に注目していきたいと思います。